

(2) 高等学校における「総合的な探究の時間」の指導

① 「総合的な探究の時間」の特質

- 目標は、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。(後略)」となっています。
- 高等学校の「総合的な探究の時間」(以下、「総合探究」)では、小中学校等の「総合的な学習の時間」での成果を踏まえ、生徒の取組が、より質の高い探究となるよう求められています。
- この、より質の高い探究とは、一つは「探究の過程が高度化する」ことで、もう一つは「探究が自律的に行われる」ことです。
- 総合探究で行う探究は、各教科等で行われる探究と違い、対象や領域が総合的・横断的で、様々な教科等での見方や考え方を総合的・統合的に働かせて探究することが必要です。また、複雑で、容易に解決の道筋が見いだしにくい実社会や実生活における課題を、様々な角度から考えていくように内容を計画することが必要になります。
- 社会への出口に近い高等学校は、小・中・高の縦のつながりにおいて総仕上げを行う学校段階として、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら課題を発見し解決していくための資質・能力を育成しているよう、高等学校での学び(探究)を組み立てることが求められています。
- 産業系の高等学校を中心とした教育活動では、既存の教育課程において、地域の課題解決型の様々な活動が従来からなされてきました。普通科系の高等学校においても、このような活動が広がりつつあります。普通科では職業選択が間近でない生徒も多く、様々な可能性があり、生徒の興味・関心が多岐にわたることから、多種多様な分野のメンターが必要となり、人材確保が困難なことが課題としてあげられます。今後更に関係機関との連携強化を図る必要があります。

② 総合探究における探究課題の設定

探究課題の設定については、地域の課題解決型であったり、生徒の興味・関心による課題であったりと学校の特色に応じて様々ですが、次のような課題設定が考えられます。

- ・ 国際理解、環境、福祉等の現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ・ 地域や学校の特色に応じた課題
- ・ 生徒の興味・関心に基づく課題
- ・ 職業や自己の進路に関する課題

総合探究では、上記のような課題を適切に組み合わせ、様々な角度から調査・考慮し、探究していく活動を通して、各生徒が自己の在り方生き方を考え、自己のキャリア

ア形成の方向性についての理解を深めていけるような、学習の過程を計画していくと、高等学校での探究的な学びが、より効果的なものとなります。

③ キャリア教育で育成を目指す4つの能力と総合探究

キャリア教育で育成を目指している4つの基礎的・汎用的能力と、総合探究で育成することを旨とする資質・能力は、密接に関係しています。キャリア教育の側から、総合探

基礎的・汎用的能力	総合探究の学習場面と育成する能力
人間関係形成・社会形成能力	グループ学習や学校外の大人から学ぶ機会などを通して、コミュニケーション能力や他者理解力などの人間関係形成能力の育成を目指す。また、社会課題についての学びを通して、自己の社会のつながりを理解し、社会参画の意欲や自分の社会的役割についての自覚など、社会形成能力の育成を目指す。
自己理解・自己管理能力	他者と協力して探究を深めたり、各自が課題研究に取り組み、その成果を発表したりする中で、自己の役割の理解や自分で動機付けして前向きに考え行動する力など、自己理解・自己管理能力の育成を目指す。
課題対応能力	社会課題を調査して原因等を分析し、解決策を考えてレポート等にまとめ、それを発表して、相互に評価し合う学習を通して、情報の選択・処理・分析力、課題発見力、問題の本質を捉えて解決策を立案する力、他の意見を踏まえて改善する力など、課題対応能力の育成を目指す。
キャリアプランニング能力	社会課題を様々な面から探究する中で、社会における自己の役割や興味・関心のある分野についての自己理解を深めていくことを通して、学ぶことや働くことの意義を考え、将来の進路選択や人生設計について考える力を高めるなど、キャリアプランニング能力の育成を目指す。

究の学習場面や、そこで育成を目指す能力の事例を整理すると、例えば、次のように整理することができます。

<参考> 様々な教育活動と4つの基礎的・汎用的能力の育成

基礎的・汎用的能力	総合的な探究の時間	学校行事(文化祭等)	HR活動	進路学習 インターンシップ ¹⁾	部活動 生徒会活動
人間関係形成・社会形成能力	○	○	○	○	○
自己理解・自己管理能力	○	○	○	○	○
課題対応能力	○	○	○		○
キャリアプランニング能力	○			○	

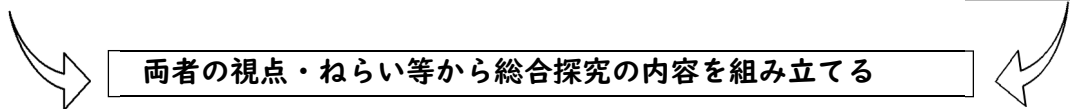
4つの基礎的・汎用的能力は、教科等での学習や総合探究、特別活動など、様々な教育活動で育成することができます。総合探究や特別活動の目標や内容等は各校で異なるため、一概には言えませんが、それぞれ教育活動で育成できる基礎的・汎用的能力を整

理すると、例えば、上表のようにまとめることもできます。各学校は、様々な教育活動の内容を総合的に計画し、4つの基礎的・汎用的能力をバランスよく育成できるよう、全体を計画することが重要になります。

④ キャリア教育の視点と総合探究の計画

本県ならではの総合探究を計画するに当たっては、みやぎのキャリア教育の視点を十分に踏まえることが重要です。

<p><u>みやぎのキャリア教育</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇郷土みやぎを学びのフィールドとし、「人・もの・こと」を存分に生かしたキャリア教育【学びの枠組み】 ◇学びをしっかりとつなぎ、経験を積み上げていくキャリア教育【縦の接続】 ◇学校・家庭・地域・産業界・行政等が連携し、一体となって進めるキャリア教育【横の連携】 	<p><u>探究課題の設定(例)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇国際理解、環境、福祉などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 ◇地域や学校の特色に応じた課題 ◇生徒の興味・関心に基づく課題 ◇職業や自己の進路に関する課題
--	--



各学校で、総合探究の具体的な内容や学習の過程を組み立てるに当たって、次に示すような点に留意すると、より効果的な学びを展開することができると考えられます。

- 小中学校等の「総合的な学習の時間」等での学習内容を把握する。
 - ・地元地域や出身者の多い小中学校等における「総合的な学習の時間」の年間計画等の資料や情報を収集する。併せて、小中学校等の教育課程についても把握する。
 - ・小中学校等での「総合的な学習の時間」の成果等を踏まえて、より質の高い探究が行われるよう、高等学校での総合探究の内容を計画する。

- 広く現代的な諸課題について、基礎的な知識・理解を深める機会を設ける。
 - ・生徒の興味・関心や卒業後の進路先等を踏まえて、自然・環境問題、医療・福祉問題、健康問題、経済や消費生活・貧困に関する問題、情報社会に関する問題、教育や文化に関する問題など、できるだけ様々な問題を取り上げる。
 - ・これらの諸課題については、公民科や家庭科等の教科学習で扱われることから、総合探究との連携を考えて、教育課程を編成する。
 - ・これらの諸課題と自分の生活とのつながりを捉えられるように扱う。

- 学校所在地の地域や本県の地域的な特色や課題について、基礎的な知識・理解を深める機会を設ける。
 - ・本県や地元地域のよさや特色、将来的な可能性等のプラス面について取り上げる。
 - ・本県や地元地域の諸課題について、ローカルな視点とグローバルな視点の両面から複眼的に捉えられるように扱う。

- 実生活や実社会における課題を取り上げ、自分との関わりを感じられるリアルな学びとなるよう手立てを工夫する。
 - ・地域の企業等で働く社会人などの大人から、実社会のリアルな情報等に基づいた学びを得られる機会を設ける。
 - ・様々な産業界の最前線で働く専門技術者や職業人、大学の教員など、高度な専門的知見をもつ人材から、専門的でリアルな学びを得られる機会を設ける。

- 生徒が、自己の在り方生き方やキャリア形成の方向性について理解を深め、卒業後の進路選択・進路設計について考えられるよう手立てを工夫する。
 - ・保護者や卒業生などの大人から、それぞれの進路選択やキャリア形成過程などについて学ぶ機会を設ける。
 - ・生徒たちの身近な世代である大学生や新社会人などのメンター的な人から、大学等での学習・研究や学生生活の様子、新社会人としての職業生活の様子などを学ぶ機会を設ける。
 - ・大学等の学部・学科研究や、企業・職業等の研究を行わせる際は、大学や企業等を実際に訪問する機会を設けたり、大学教員や企業等の社員等から実際に話を聞く機会を設けたりするなど、様々な機会を設ける。

